

「縄文時代を感じて」

遺跡巡るガイド第3集完成

大昔調査会

八ヶ岳周辺の長野、山梨両県と14市町村で構成する日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の活用に向けて、諏訪6市町村の遺跡を巡るウォーキングガイド「あのスゴいお宝が出たのはココです」の第3集が完成した。諏訪6市町村の博物館などで無料配布する。



ウォーキングガイドを手にする大昔調査会の高見さんと編集を担当した坂間さん

の遺跡や駐車場、散策コースも記載し、遺跡巡りができるようにになっている。

大昔調査会の高見俊樹理事長(65)は「出土場所を歩くことで縄文時代の暮らしや環境を感じてほしい」と期待を寄せる。ガイドを手に博物館やゲストハウスを訪れる縄文ファンもいて、遺跡巡りと博物館見学の好循環が生まれているという。調査会のホームページでは岡谷市と富士見町のスピノフムービーも公開している。

第3集までの3冊で諏訪地

方の主な遺跡を紹介できたといい、ガイドの発行はいったん終了する。高見理事長は今後は遺跡を中心とした地域貢献を考えたいと話している。

県の地域発元気づくり支援金を活用して8000部作

ガイドはA5判、26ページ。茅野市役所前の噴水のモデルになった「波状口縁深鉢形土器(茅野市)や、ヘビのような飾りが印象的な「動物装飾

査会副理事長の三上徹也さんが監修し、運営委員の坂間雄司さんが編集長を務めた。ふり、6市町村に各1000部を届けた。小中学校や図書館にも配布するという。大昔調査

の作画を担当している。野市役所前の噴水のモデルになった「波状口縁深鉢形土器(茅野市)や、ヘビのよう

解説文を掲載した。手書きの地図には出土場所のほか周辺